



今回のガイド

こばやしりょういち  
小林 良市さん

丸岡地区の出身・在住。荘内加藤清正公・忠廣公遺蹟顕彰会の副会長。現在は農業の傍ら、観光ガイドを行っている。

山形市から月山を越えて庄内に続く国道112号線。鶴岡に入る前、最後に通る160世帯ほどの集落を丸岡という。この地区の人たちはよく「セイショウコウサマ」という言葉を口にする。呪文のようなそれは、漢字に変換すると「清正公様」。肥後熊本54万石の戦国大名、加藤清正のことを指す。

清正の嫡男、忠廣は寛永9年、徳川幕府の外様大名取り潰し政策から領地を没収され、庄内藩預かりとなった。そして居城を構え、亡くなるまでの22年を過ごしたのが、この丸岡だった。

今回は、清正・忠廣にまつわる逸話に詳しい小林良市さんにガイドをお願いし、丸岡城跡を中心に散策した。

まずは、清正のお墓がある天澤寺を訪れた。木造の寺社の左側に「清正閣」が見えてきた。「ここは清正公の菩提を弔う公の墓所として築かれました。墓石は熊本産の島崎石。両側の五輪塔は、忠廣公が庄内に来てか



第9回 庄内みどころ 再発見

# きよろきよろ櫛引 史跡あるき

Supported by 庄内広域行政組合



ら生まれた男女の子のものといわれています。忠廣は配流された身分のため子どもを隠し、養育を家臣に頼んだ。その2人の子が生まれた証として五輪塔を造ったと伝えられている。「清正公が戦の神様なので、昔は地区に男の子が生まれると、この祠の中に木刀を納めました。我々は小さい頃それでチャンバラをしてえらく怒られたものです」。小林さんが思い出し笑いを浮かべた。チャンバラをするぐらいの方がたくましく育ちそうだが、大切に信仰されてきたのだろう。

300年間  
秘匿されていたお墓

天澤寺の裏手に回ると、代々の住職を祀った世代墓地がある。「清正公の遺骨の在処は300年も不明でした。丸岡には「清正閣」の下にあるような言い伝えが残っていたので、昭和24年に顕彰会で発掘したんです。すると下には鎧が埋めてありました。熊本や忠廣公の嫡男が流された木曾も探したけれど見つからず、丸岡で3回目の発掘調査

室町時代から続く伝統芸能の黒川能やフルーツタウンとして知られる旧・櫛引町。今回は知る人ぞ知る歴史スポット丸岡地区を歩きました。



天澤寺にある「糸塚」。鶴岡出身の綴錦織の巨匠・遠藤虚籙の願いにより、端糸や屑糸の供養のために建てられた。



清正の遺骨の上に置かれていた五輪塔。現在はすぐ脇の祠に納められている。





# 耳より櫛引 | かわら版

実りの秋に訪れたい！  
おいしい & 楽しいスポット



## 観光果樹園

さくらんぼ、ぶどう、和なし、りんごなど、春から秋までフルーツ狩りが楽しめる。もぎたての美味しさと収穫の楽しさは格別。  
☎0235-57-3677  
(観光果樹園紹介所)



## ふるさとむら宝谷・宝谷そば

キャンプやそば打ち体験などが楽しめる宿泊施設。隣接している「宝谷そば」では、4月から11月までの土日祝日限定で会食ができる。9月中旬には「そばのお花見カフェ」、10月25日(日)には「新そばまつり」の会場となり、多くのファンで賑わう。写真は2014年の「そばのお花見カフェ」。  
☎0235-57-4415 または ☎0235-57-2115 (櫛引庁舎産業課)



## 産直あぐり

地元の新鮮な野菜や果物、加工品などが揃う直売所。観光果樹園の案内はここで受けられる。  
☎9:00~18:00(冬期間17:00まで)  
☎1/1~4  
☎0235-57-3300

## 探してみよう!

この独特な形は、鶴岡市名誉市民の彫刻家・富樫実さんの作品。櫛引地区を中心に、庄内空港などあちこちに置かれている。



いいお顔(^^)



清正のトラ!



気分はトトロ

## 櫛引イベントガイド

### こしゃってマルシェ

櫛引地区に在住・在勤の30代が集まって立ち上げた「手づくり」をテーマにしたマルシェ。年4回開催。

☎日時 10月11日(日)、2月14日(日) 10:00~15:00

☎場所 こしゃってマルシェ広場(櫛引庁舎南側緑地)

☎問 ☎0235-57-2111 (櫛引庁舎総務企画課)



## 横綱・柏戸(1938~1996)

本名は富樫剛。1960年代に大鵬関のライバルとして活躍し、高度成長期の相撲黄金時代を支えた。



## 横綱柏戸記念館

大相撲第47代横綱柏戸・鏡山親方の偉業を伝える展示館。化粧回りや迫力ある取り組み映像、移築・復元された旧鏡山部屋などが見物。隣接のスポーツセンターから入館する。  
☎9:00~17:00 ☎年末年始(12/29~1/3) ☎無料  
☎0235-57-2115 (櫛引庁舎産業課)

忠廣が居住していた頃の遺構。さらに40cmほど下には武藤家による統治時代の遺構が残る。



をしたところ世代墓地に置かれていた五輪塔の下から遺骨が出た。土したんです。木を隠すなら森の中。その徹底ぶりに忠廣がどれほど父を慕っていたのかが分かる。骨壺は美しい唐津焼だったそう。本当は立派なお墓を建てたかっただろうと思うと、切なさがこみ上げてきた。

## 口伝えでつながる丸岡の歴史

清正の墓に手を合わせ、隣の丸岡城跡へと向かう。平成11年から18年の発掘調査で現れた遺構が整備されており、往時がしのばれる。丸岡城の創建は1467年とされるが、なぜここに城が置かれたのか。「ここは鶴岡から南に約1里半(約6キロ)の距離にあり、近くに月山を越える六十里越街道が通っている。内陸からの侵攻を防ぐ前線基地を置くのにちょうど良かったのです。なるほど、軍事的な理由が大きいらしい。「もう一つは景観の良さですね」言われて顔を上げると目の前には青々とした金峯山。そして月山と、天気の良い日には鳥海山も望む。庄内藩は忠廣を客人として扱っていたため眺めの良い場所を提供したのだ。「城跡は顕彰会で管理しています。草取りが終わった後に一杯やりながら、忠廣公の家臣も同じ景色を見ていたのかと思うと、昔の人たちの声が聞こえてくるような気がするんです」。小林さんのロマンチストな言葉が何だか微笑ましい。

丸岡では清正の命日がある7月に「清正公祭」が行われる。お逮夜祭では清正、忠廣の像を載せた山車が町内を練り歩く。「清正公に町の姿を見てもらうのだ」と言うが、丸岡の人たちはどうして清正に強い思い入れを抱くのか。「文献には残されていませんが、丸岡には清正公に関する口伝がいっぱい残っているんです。忠廣公や家臣のことを代々伝えるのが地区の歴史になっているんです」。出羽庄内地にたどり着いた加藤忠廣。自分たちが今も丸岡の人々の心に残り続けていると知ったら、どんな気持ちになるだろう。

編集・文||松本典子 写真||間真由美  
協力・写真提供||櫛引庁舎総務企画課、同産業課、鶴岡市農政課



樹齢100年の桑の木。巨木!